令和８年度　第２回伊勢市スポーツ推進審議会　会議録（概要）

１　日　時　　令和８年 10 月 15 日（木）19：00～21：00

２　場　所　　小俣総合支所３階　大研修室

３　出席者　　会　長　片山　靖富　（学識経験者）
副会長　龍田　　洋　（伊勢市スポーツ協会）
委　員　川口　京子　（伊勢市スポーツ推進委員連絡協議会）
山端　正人　（伊勢市スポーツ少年団）
奥田　　守　（伊勢市レクリエーション協会）
志賀　　剛　（伊勢市小学校体育部会）
西村　真里　（伊勢市ＰＴＡ連合会）
橋本　さち子（総合型地域スポーツクラブ）
平沼　美智子（健康づくり・スポーツ女性指導者）
立花　和子　（健康づくり・スポーツ女性指導者）
豊島　久雄　（学識経験者）
事務局（伊勢市教育委員会事務局スポーツ課）
長井　正文　（課長）
横田　和貴　（主幹兼スポーツ振興係長）
中西　弘幸　（スポーツ施設係長）

１　あいさつ

伊勢市教育委員会事務局　スポーツ課長　長井　正文

２　協議事項

（１）第４期伊勢市スポーツ推進計画（案）第１章から第４章について

【委員】６ページ「～スポーツでつなぐコミュニティ～」のところで、女性のスポーツ実施率が男性より低い傾向にある背景として、この文章だと男性は家事育児をしてなくて、スポーツに親しむ時間があるから、男性のスポーツ実施率が高いと読み取れてしまうので、表現を工夫した方がよいと思う。

社会背景を考えると、男性も家事育児をするのが当たり前の時代で、女性でたくさん仕事をする方が増えてきている。条件としては対等な環境にあると思う。

伊勢市では女性就業率が低い傾向にあるのであれば、客観的な証拠を示した上で記載した方がよいと思うし、それ以外の理由で女性の方がスポーツに関わる機会が少ないということがあるのかもしれない。

小中学生の年代からスポーツをしていない女性が明らかに男性よりも多いことを考えたら、仕事・家事育児以外の理由で女性のスポーツ実施率が低いと考えられる。

男性よりも女性の方がスポーツ実施率が低い、女性が何かしらの理由でスポーツに参加していないということは事実なので、参加しやすい環境作りが今伊勢市では求められているというメッセージで十分ではないかと思う。

【事務局】ご意見いただいた点を踏まえ、女性のスポーツ実施率が男性より低い傾向があるという事実があって、女性がスポーツに参加しやすい環境作りが重要という記載に修正したいと思います。

【委員】スポーツ実施率向上の目標が 20 歳代から 50 歳代をターゲットとしているが、今は小学生から減ってきてると思う。

20 歳代のスポーツをしている女性は、小中高とやってきて、その流れで続けている方が多いと思うので、子どもの頃から女性もスポーツに参加しやすい、そういうニュアンスも入れられたらよいのではないかと感じた。

【委員】小学生の女性のスポーツ実施率が低いのは、おそらく全国的な傾向だと思うし、特に女性は若い頃からスポーツに参加しやすい環境を伊勢市は作っていくというメッセージの方がよいと思う。

<u>（１）第４期伊勢市スポーツ推進計画（案）第５章及び資料について</u>

【委員】10 ページの数値目標が 20 歳から 50 歳代のスポーツ実施率としているが、推進計画の対象はこの年代に限ったことではないと思う。

おそらく、この年代のスポーツ実施率が低いということだと思うが、可能であれば、各年代ごとに数値目標を定めるのがよいのではないかと思う。

【委員】12 ページスポーツ協会加盟団体の総会員数とその割合の現状値は、複数のスポーツ協会加盟団体に会員として参加している方もいる可能性があるので、延べ人数ということでよいか。また、7.4%という割合は、その年の伊勢市の人口に対する比率でよいか。

総会員数が延べ人数だとすると、大きな違いはないと思うが、割合の出し方が難しいと思う。

【委員】資料 16 ページの市が主催するスポーツ大会等への参加人数の但し書きと、18 ページの伊勢市スポーツ少年団の但し書きに令和 2 年度云々という記載があるが、このグラフには令和 2 年度がない。また、スポーツ少年団の団員数が回復傾向にあると記載されているが、令和 4 年度に大きく減っているので、表現を少し変えた方が良いと思う。
　総合型地域スポーツクラブのところで、ただし書きの最後に会員確保に繋がっていると考えられる、というふうにあるが、他のグラフの但し書きは、特に考察は交えていないので、表現を統一した方がよいと感じる。
　スポーツ施設の稼働率の但し書きで、稼働率が 76％前後を書いてあるが、グラフでは 80％前後くらいに見える。

【委員】14 ページの公共スポーツ施設に対するその満足度について、資料にグラフが載っていないが、他の数値目標に関してはグラフが載っているので、バランスが気になる。

【委員】スポーツ少年団のグラフと総合型スポーツクラブのグラフがあるが、スポーツ少年団の団員数が減少した背景として、以前はスポーツ少年団に入ってないと小学校の施設を利用できなかったが、総合型でも利用できるようになったということがある。
　また、例えば修道サッカーだと団員が 80 人くらいいるので、減少傾向にあるという表現は一概には当てはまらないと思う

【事務局】スポーツ少年団の加入率が子どものスポーツ実施率に当たるかというところは不確かなグラフであると思うので、資料にグラフを載せるかを検討します。

【委員】９ページのスポーツ施設の稼働率は、現状値と目標値が変わってない。
　また、第３期の達成状況も同様だが、スポーツ施設に対する満足度の目標値が 85.8％と端数まで記載しているのは、90％にしなかったのは理由があるのか。

【事務局】目標値の設定については、実績を踏まえて事務局で検討したものである。

【委員】もう少し攻めた目標値の設定をしてもよいのではないか。
　スポーツ協会加盟団体の総会員数 9,600 人を 1 万人にするとか、総合型スポーツクラブ会員数 3,800 人を 4,000 人にするとか。
　根拠が明確であれば細かい数字を設定するのもよいが、明確にしないので

あればもっと攻めた目標値にしても良いと思う。

【事務局】上位計画との整合性もあるので、ご意見を踏まえて検討したい。

【委員】スポーツ施設の満足度というのは、一例を挙げれば、野球をする会場を探すときに朝熊町のソフトボール場は前日に雨が降ると使えないので、最初から借りない、雨予報が出たら借りないということがあるので、天候の影響で満足度が下がることがあると思う。

【事務局】伊勢市では毎年、市民アンケートを実施しており、設問にスポーツ施設の利用満足度という項目があるので、利用されていない方はおそらく満足していないという回答もあるかもしれないし、複数の施設を利用していて総合的に満足度を判断する方もいれば、一つの施設しか利用していない方は、その一つの施設に対しての満足度を評価されることもあると思う。

【委員】例えばそのサッカーをしている方は、伊勢フットボールビレッジというサッカー施設に対しての満足度というように、具体的なことがわかると、サッカーをする人の満足度を上げるにはどうしたらよいかということが言えると思う。
　全体の満足度を上げていこうとしても、何が原因で満足度が低いのか見えてこないと、対策が難しいと思う。

【事務局】市民アンケートについては、事務局としても今後の施設の稼働率や満足度を分析する上で具体的なご意見をいただきたい貴重な部分ではあるが、今の市民アンケートのシステムでは難しいことをご理解をいただけたらと思います。

【委員】市民アンケートを根拠としているが、例えば各施設ごとで調査をし、それを集計して根拠とすることもできる。
　推進計画では全体的な目標でもよいと思うが、今後、具体的に本当に満足度を上げていきたい、利便性を上げていきたいとなったときには、施設ごとの調査をし、対策をしていく必要があると思う。

【委員】旧伊勢市だと活動場所が限られており、いせトピアが取り合いになる。高齢者だと小俣まで通うのが難しく、伊勢に室内で活動できる場所が欲しいという意見が多いので、ぜひお願いしたい。

【委員】14 ページのスポーツ施設の満足度が低いというのが、公共スポーツ施設

を対象としているが、各学校では夜間や休日にたくさんの方が、年齢も広く利用している現状があると思うので、こちらも対象にしていくと満足度が上がってくるのではないかと思う。

（３）策定スケジュールについて

【委員】書面審議というのは、郵送で資料が届き、承認の連絡をするのか、訪問して意見を聴くのか。

【事務局】お仕事をされてる方もみえると思いますので、郵送と、直接お届けする方法と、皆さんが対応していただける方法を検討します。

３　その他

特になし。